

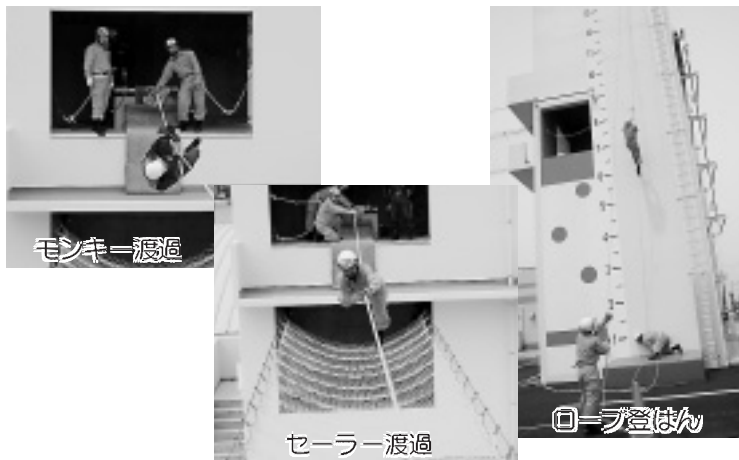
上島町消防だより

署内合同訓練実施

～署員の技術向上に向けて～

去る4月27日、消防署において救助訓練を実施しました。新庁舎が完成して、訓練塔を使用した初めての署内合同訓練となりました。

今回は、基本的な救助訓練に必要な、ロープ上を渡るロープ渡過訓練や、15mの訓練塔を登る、登はん訓練を実施し、日頃の個々の鍛錬を十二分に発揮することが出来ました。



また、5月23日、愛媛県消防学校において救助科訓練披露会が行われ、上島消防から6名が見学参加しました。



右端が穂積隊員

消防学校における救助訓練風景

当消防本部からは、穂積消防士が救助科へ入校しており、「強く、安全で、扱いやすい」都市型救助資器材を使用した、高度な救助訓練を修得しました。

訓練披露会を見学した署員も、刺激を受け、今後の技術向上に繋がる良い機会となりました。

今後とも、署員一同、救助、救急等の各種訓練を実施し、更なる技術向上を目指し、町民の皆様の安心・安全のために努力して参ります。

水の事故をなくそう！

～水難事故防止のために！～

水辺で遊ぶ機会が多くなる季節を迎えました。この季節は、全国各地で水難事故が多く発生します。

上島町管内においては、昭和52年～平成18年までの30年間で32件の水難事故が発生し、昨年7月にも、1件発生しています。水泳等をするときは、しっかりと準備運動を行い、十分に体調管理を行いましょう。

また、子供だけで行かせず、大人がしっかりと監視しましょう。

～水難救助の基本～

溺者を発見した場合、水泳に自信のある人でも泳いで救助に向かうのは大変危険です。二重事故になる怖れもあります。まず、浮き輪やロープを使って助けることを考えましょう。

◎救助するには…

①上着、Tシャツや竹、棒をさしだしたり、木にロープを巻き、それらにつかまらせて救助する。

②木の板等浮力のあるものを投げ、浮き輪がわりにして救助する。



経済産業省からのお知らせ

「小型ガス瞬間湯沸器をご利用の方へ」

最近、換気不良により、小型ガス瞬間湯沸器での一酸化炭素中毒による死亡事故が発生しています。

必ず換気を行い、一酸化炭素中毒による死亡事故を防ぎましょう。

ご利用されている方は、以下の事に注意してください。

○閉め切った4畳半の部屋では、小型ガス瞬間湯沸器を燃焼させると、約20分で致死量の一酸化炭素が充満することもあります。

○一酸化炭素は無色無臭です。頭痛や吐き気で体の異変に気付いた時には、手足等がしびれて動けず、手遅れになり死に至る場合もあります。

平成19年の出動件数

	火災	救急
今年(5月)	0	35
昨年(5月)	1	38
前年比	-1	-3
19年累計	1	196

平成19年5月31日現在

火災と救急は119番

消防本部・署 77-4118(代)



農業講座

しまなみ農業だより 夏の果菜類(実の成る野菜)の管理

キュウリ、トマト、ナス、ピーマンなど、実の成る野菜は成長と実を成らせ、長期間栽培します。この間の管理の良し悪しにより実のとれる期間が違ってきます。生育は天候や病害虫の発生などでも左右されますが、栽培管理が重要です。今回は主要な夏野菜の基本管理について解説します。

■水やりと肥料のやり方

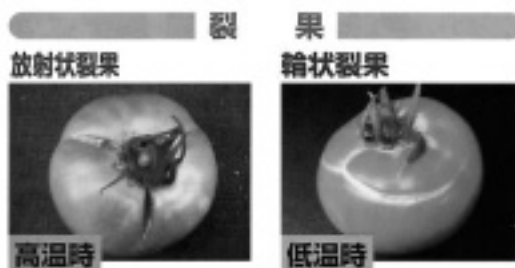
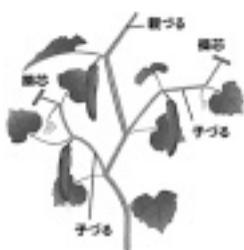
- ①**キュウリ**：肥料と水を十分に与えなければなりません。水は晴天ならほぼ毎日、肥料は定期的（約10日おき）に株から少し離してやります。株元に敷き草などで覆い乾燥を防止します。
- ②**トマト**：肥料のやりすぎは禁物です。木だけが太って奇形果になりやすい。植え付け前に施肥している時は、3段目から奇数段ごとに実が500円玉大の時期に肥料を与えます。水は実の成るまでは控え、実が付いてから少量多かん水とする。乾燥させると実に「尻腐れ」が発生しやすくなる。
- ③**ナス、ピーマン**：肥料と水を十分に与えなければなりません。水は2日おきにたっぷり与えます。肥料は定期的（約15日おき）に株から少し離してやります。水分不足により実にツヤがなく「尻腐れ」が発生しやすくなるので土の乾燥や跳ね上げを防止するため敷き草などを行う。
- ④**スイカ**：節水気味に管理しますが、少雨で葉が巻くようであればかん水が必要です。肥料は生育をみながら15日おきに2回、ツル先に施用する。

■整枝と剪定、摘葉

木は常に生長しながら実を付けます。株内の採光と生育を調節するため不要な枝や古い葉を取り除きます。木や葉を更新することは実を長く取るための重要な作業となります。

- ①**キュウリ**：ツルの成長が早く、ネットに誘引することが多い。各節から芽が伸びるが、下位の5節の芽と花は全て除きます。子ツルは実が付いた先の葉を2枚残して摘芯する（図参照）。孫ツルは放任するが、込み合う時は摘心するが、3～4本は成長点のある芽を伸ばすと勢いが弱らない。摘葉は、新しい葉が大きくなれば古い葉は除くが、摘葉は1株につき1日2枚までとする。
- ②**ナス**：枝が伸びやすいので、整枝が重要である。花の先に1枚の葉を残して摘芯する。その実を収穫する時に枝元の葉を1枚残して枝を切り取り、枝元から芽を更新する。これを繰り返す。枝が伸びすぎて良い実がとれなくなれば、7月末に枝を切り返して枝を更新する（図参照）。また、実に光が当たらないと色が薄くなるので、光が入るように摘葉していく。
- ③**トマト**：各節の葉の元から芽が出てくるので全て除く。
摘葉は、実を収穫した段の下までで、黄色い葉や古い葉をのける。
トマトは果実に直射日光が当たりすぎるとヘタから裂果しやすくなるので葉で果実を隠すようにする。

■摘芯の仕方



■注 意

露地栽培は天候に左右されますが、生育後半には木の勢いも低下してきます。適期の施肥により勢いを保つことが長く収穫するコツとなります。また、病害虫の発生も生育後半にはハダニやうどんこ病が発生し油断できません。特にスイカでは収穫前に「つる枯病」や「たんそ病」により全滅することもあります。雨に注意して雨前の予防散布が大切です。